

# 日本フロアボール連盟

## ネオホッケー競技ルール

2014年4月版

反則抜粋版

日本フロアボール連盟

2012年4月28日制定

2014年4月1日改定

### はじめに

1968年スウェーデンで発案された競技をルーツとしたこのスポーツは、1978年にスウェーデン大使館を通して日本に本格的に導入し、日本の施設環境等に合わせて改良をし、普及活動を続けているニュースポーツです。

これまで、「ユニホック」・「ユニバーサルホッケー」として全国で活動を展開して参りましたが、2012年4月28日に統合し、名称を「ネオホッケー」としスタートをいたしました。

ここに、新たな競技ルールを制定いたしました。ネオホッケーを始めるときに必要なネオホッケーの基本とルールについての解説書となっていますので、十分に理解し楽しんでください。

学校や地域でネオホッケーを競技として行うとき、指導者や審判の方に特に留意して頂きたいのは「危険防止」と「公平の原則」です。参加者の年齢、会場の大きさ等、条件は様々だと思いますが、指導者の適正な判断によって、危険を伴う行為を規制して、「みんなで楽しめるスポーツ」であることを第一義として取り組んで頂けることを願っております。

## 第 10 章 反則

### 1. 【キッキング】

足の裏全体を床面に接し、静止した状態でボールを足で止めるのは良いが、蹴ってはいけない。

但し、足の裏全体を床面に接し、静止した状態でボールが当り、コースが変わった場合やパスになった場合は適用されないが、得点は認められない。また、ボールを踏んで変形させてはいけない。

### 2. 【ハイスティック】

プレーヤーはスティックのブレードを、膝より上に上げてはいけない。

### 3. 【スライディング】

手や膝を床についたりしてプレーしてはいけない。(転んだ場合も適用される)

### 4. 【スローイング】

スティックを、投げたり落としてはいけない。

### 5. 【ハッキング】

飛んでくるボールを動作が静止した状態で、上半身を用いて止めることはできるが、頭、手または腕で止めてはいけない。また、ジャンプしてボールを止めてはいけない。

また、上半身を用いてボールの方向をコントロールしたり、得点をしてはいけない。

ゴールキーパーは、自陣シューティングライン内において、膝より上のボールを手の平、腕または身体で受け、止めることは認められる。但し、はたく・つかむ等の行為は認められない。

### 6. 【ダブルストローク】

フリーストロークをしたプレーヤーは、2度続けてボールを打っては(触れては)いけない。

但し、第1打のボールが、他のプレーヤー、または審判など、第三者(ゴールポストを含む)に触れた後はプレーを続けて良い。また、ボールはヒットしなくてはならない。

### 7. 【クラッシング】

自分のスティックで相手チームのプレーヤーのスティックを、打って妨害したり、押さえたり、持ち上げたりしてはいけない。

### 8. 【ステップインオフェンス】

攻撃側のプレーヤーは、足全体が、相手チームのゴールエリア内床面に踏み入ってはいけない。また、手など、身体の一部がゴールエリア内床面に触れてはいけない。

### 9. 【ステップインディフェンス】

防御側のプレーヤーは、足全体が自陣のゴールエリア内床面に踏み入ってはいけない。また、手など、身体の一部がゴールエリア内床面に触れてはいけない。

防御側がすると＝攻撃側のペナルティーストローク

### 10. 【チャージング】

相手チームのプレーヤーに対し、蹴る、掴む、押す、タックル等身体に接触してはいけない。また、スティックで相手チームのプレーヤーを叩いたり、引っ掛けてはいけない。

### 11. 【フッキング】

相手チームのプレーヤーの股の間にスティックを入れてプレーしてはいけない。

### 12. 【スティックインゴール】

ゴール内にスティックを入れてプレーしてはいけない。

防御側がすると＝攻撃側のペナルティーストローク

攻撃側がすると＝防御側のフリーストローク

13. 【プッシングゴール】

ゴールを動かしたり、握ってプレーしてはいけない。

14. 【シャフトボール】

膝より上のボールをスティックのシャフトで操作してはいけない。また、膝より下のボールがシャフトに当たった場合は適用されないが得点は認められない。膝より下にグリップエンドを下げたシャフトでボールを止める事は良いが、打った場合も適用される。

15. 【オーバータイム】 フリーストローク、ペナルティーストロークの時は、審判の再開の笛の合図から3秒以内に、プレーを開始しなくてはならない。

16. 【オブストラクション】

その他、故意・粗暴な行為、及び、相手チーム・審判に対して暴言を吐く行為、床・フェンス・ゴールを叩いたり、蹴ったりしてはいけない。

また、防御側のコート内において、攻撃側のフリーストロークで打ったボールが防御側の選手の首から上に当たった場合も適用される。但し、防御側のプレーヤーが態勢を低くしている場合やボールを取りに行った場合は適用されない。

